

治療家と治療家をめざす人のための 鍼灸・手技療法専門マガジン

温故 [ONKO-CHISHIN] 知新



「温故知新」
の情報はこちら
のサイトから

月刊

Vol.29

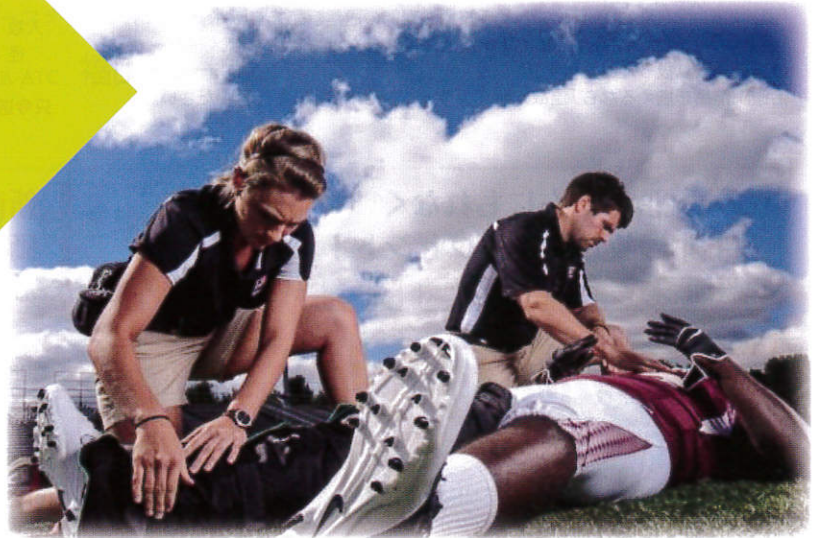
2016. 12.15

求人情報掲載

毎月15日発行

TAKE FREE

¥0



特集

『スポーツトレーナーを目指す』

新連載

今月のアロマセラピーレシピ / 建石 紀美子

連載記事

鍼灸大航海時代「新鍼灸ドキュメンタリー映画撮影開始」 / 伊藤 学

目からウロコの物理学的経絡治療「番外編 基礎理論の大切さ」 / 岡西 裕幸

医療接遇「所作」 / 上石 優子

鍼灸師のための経穴デザイン入門「世界一やさしい『三焦』の解説（中編）」 / 栗原 誠

柔整師は現場経験が命「柔道整復師としてのカラダの見方」 / 山田 敬一

北埔便り 台湾の長寿村から「温故知新セミナーセンター開業準備室」 / 村尾 則広

河村宗典先生に聞く水素水① / 林 健司 × 河村宗典

元気になる楽食「サッパリ味の 春菊の餃子」 / 名畑のぞみ



セラピスト・リーダーズ・カレッジ Presents,



今回は河村宗典先生に水素水について語って頂きました。その模様をお送りさせていただきます。

一まずはじめに先生が水素水を知ったキッカケを教えてください。

1985年、私と林秀光先生、今も市販されている、水道水を電気分解する装置をたまたま知る機会があった。私は、あまり興味持たなかったけど、林先生は興味を持たれた。その装置は、私たちが知る20年ぐらい前に日本で発明されていてね、1965年、当時の厚生省が、これを医療用の用具として認可したわけです。その事実を知らないまま、私たちが20年後に、その装置に興味を持った。林先生がしばらくずっとその装置を販売している人たちに日本中ついでまわって、色んな人の体験談を聞いてこられた。そのキッカケで、この水には何かあるぞということで、私の病院にも導入してみようということになったのが始まりです。

林先生は臨床から離れておられたので、私が患者さんの臨床を担当、林先生が水の理論や仮説を担当して一緒にやってきたのです。最初は私の病院の職員の糖尿病の人が、今まで薬でずっとやってたのが、水を替えただけで、たった2週間で全く変わった。こんなことが起こるのかと！勿論全員が2週間というわけではないのですが、検査データから自覚症状の改善や様々ことがその人に起こって、自分で「この水のお陰だ」と言うわけです。それからもう私は手当たり次第に色んな人に水を使いましたね。

一病院内で、水素水をどのように使われたのですか？

食事は、みんなこの水で賄います。それから病室やら、病棟やら、水の電気分解装置をあちこちにいっぱい付けて、患者さんに自由に飲めるようにした。

一どういう理屈で症状が改善したのでしょうか？

色々林先生と調べたけれど、なかなか納得行く理屈がわからんと。臨床的に良いことが起こるが、一体何なのだと。当時この水はアルカリイオン水って言い方していて、アルカリ性が良いのかと、色々理屈を組み立てるけど、あっちが立ったらこっち立たん。アルカリ性だけじゃ物言えない。結局、わからないまま1990年代になって、病気の原因は『活性酸素』にあると、医学の世界でだんだん言われるようになってきました。『活性酸素』とは一体なのだ？私らは大学で習ってない。林先生とあれこれ一所懸命勉強しようにも、当時は医学の世界ではほとんど本が出てなかった。『活性酸素』は、体の中の生命代謝の結果いっぱい出て、非常に強い『酸化力』を持っている。生物はみんな、酸素呼吸すると、結果的に『活性酸素』が出て、これが病気の原因になる。それを消去する『選

元酵素』や『抗酸化物質』を植物も動物も持っているわけです。酸素を使って生きている生物はすべて、宿命の『活性酸素』をキチッと消去しないと生命代謝を営むことができない。だんだんそういうことがわかってきた。人間もいわゆる還元酵素を何種類も持っているけど、現代人は体の中の『活性酸素』をキチッと消し切れていない。いわゆる過酸化状態に陥っている。つまり毒を体に余している。電気分解の水で色んな病気が良くなるとすれば、その水は『活性酸素』を体の中で消す、『抗酸化作用』を持っているのではないかという仮説を林先生が立ててね、この水は『酸化力』の反対『還元力』を持っているに違いないということになったのです。

この水が水素を沢山持っているということは、理論上はわかっていました。電気分解したらマイナス極側に水素がいっぱい出てきますからね。ではこの水に水素があるかを証明してもらおうと、ある研究所に行ったのです。ところが、最初は断られた。なぜなら世の中にいっぱいある水、自然界の水、水道水も含めて、飲料水として使われている水に水素はほとんどないから、調べても無駄ですよって言われたのです。だけど林先生が「そんなことない！これは電気分解して作った水で、陰極側に水素が理論的には出ているし、実際にいっぱい気泡が出ているから調べてくれ！」と言ったら調べてくれて、水道水の数百倍の沢山の水素を含んでいてビックリした！これだけ沢山の水素を含んだ水があるのかと！放っておけば、だんだん抜けて行きますけど、電気分解した直後に、水素はいっぱい出ていますからね。陰極側から出た水素が飽和し、気体になり、水素ガスが出てくる。

水素は酸素に対して『還元作用』を持っている。そこで林先生が電気分解した還元力を持った水ということで『電解還元水』、または酸化することに抵抗する水『抗酸化水』と名を付けた。それを林先生が本に書かれたので「こういう水なのだ！」と！その本を読んだ、抗酸化物質のポリフェノールを研究している九州大学の白畑先生の農学部の教室の大学院生が、書店で林先生の本をたまたま見つけた。農学部ですから、みんな植物が持っている還元・抗酸化物質を研究しとったのに、まさか水そのものが持っている。水は、あらゆる物質の溶媒で、ミネラルや栄養、ポリフェノールなどの溶質を溶かす力を持ったもの。抗酸化物質を持った溶質を、みんな求めているのに、溶媒の水そのものが『還元力』を持っているという考え方は、今までになかった。だからその大学院生はビックリして、その話を教室の白畑先生に話した。白畑先生も専門家ですから、すごく興味を持って林先生とつながって、1996年に研究が始まったのです。すると翌年スグに、水の中に『活性水素』が存在することが証明された！

(続く)